

平成 23 年 5 月 11 日

各 位

会 社 名 東邦ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 濱田 矩男
 (コード番号 8129 東証第一部)
 問合せ先 執行役員コーポレート・コミュニケーション室長
 兼 経営企画室長 加藤 勝哉
 (電話 03-5259-9520)

平成 23 年 3 月期業績結果について

医療用医薬品市場は、平成 22 年 4 月に新薬創出・適応外薬解消等促進加算を主とする新薬価制度が試行的に導入され、平均 6.5%の薬価の引き下げが実施されましたが、高齢化の進展や新製品の上市により、前年同期比 2.5%程度（クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社推計）の安定した伸長がみられました。

当社グループにおいては、総価取引・薬価差・未妥結・仮納入の是正等、従来からの流通課題の改善に取り組みながら、新薬価制度の趣旨に基づき、医薬品個々の価値に応じた合理的な販売価格の形成と適正利益の確保に努めました。

本年 3 月 11 日に発生しました東日本大震災におきましては、東北エリアの物流センターである TBC 本宮（福島県本宮市）を始め、複数の営業拠点で停電や通信回線の不通などにより、当初、業務に支障が発生しましたが、事業継続計画に基づき首都圏の物流センターおよび近隣の営業拠点からバックアップを行い、被災地に対する医療用医薬品の安定供給を継続させることができました。

このような状況下において当社の業績は、売上高 1,059,612 百万円（前期比 5.7%増）となりましたが、卸間の競争激化や価格交渉の難航により、営業利益 5,839 百万円（前期比 46.6%減）、経常利益 9,481 百万円（前期比 32.9%減）の結果となりました。特別損益では、東日本大震災関連損失 708 百万円、減損損失 1,365 百万円、貸倒引当金繰入額 1,323 百万円を特別損失として計上しましたが、投資有価証券売却益 2,226 百万円を特別利益に計上した結果、当期純利益は 7,283 百万円（前期比 11.9%減）となりました。

売上高以外の利益項目は、前期比減の結果となりましたが、平成 23 年 2 月 1 日発表の修正業績予想に対しては、全項目とも超過達成することができました。

1. 平成 23 年 3 月期業績（連結）

(1) 前期比

単位：百万円、%

連結	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 23 年 3 月期	1,059,612	5,839	9,481	7,283
平成 22 年 3 月期	1,002,122	10,939	14,133	8,263
前期比増減額	57,490	△5,100	△4,652	△980
前期比	105.7	53.4	67.1	88.1

(2) 通期業績予想比

単位：百万円、%

連結	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成23年3月期	1,059,612	5,839	9,481	7,283
通期業績予想(修正後)	1,043,000	5,600	8,900	6,800
通期業績予想比	101.6	104.3	106.5	107.1

(3) 売上総利益率、販管費率、営業利益率、経常利益率の前期比

単位：%

連結	売上総利益率	販管費率	営業利益率	経常利益率
平成23年3月期	8.1	7.6	0.6	0.9
平成22年3月期	8.1	7.0	1.1	1.4
前期比	0.0	0.6	△0.5	△0.5

2. 平成24年3月期通期業績予想

単位：百万円、%

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成24年3月期	1,075,000	6,900	9,500	4,900	※62.68円
平成23年3月期	1,059,612	5,839	9,481	7,283	97.83円
増減額	15,388	1,061	19	△2,383	△35.15円
増減率	1.5	18.2	0.2	△32.7	△35.8

※1株当たり予想当期純利益は、平成23年4月1日を期日とする株式会社ショウエーとの株式交換により割当交付される新株発行株式数3,687,640株を含めて補正しております。

当社が属する医療用医薬品市場では、次期は薬価改定のない年に当たり、医療費抑制策の浸透に加え、景気低迷による受診抑制等不透明要素があり、また、難航している価格交渉や本年3月の東日本大震災の影響も加わり予想の難しい状況ではありますが、連結子会社の増加による営業利益増加や価格管理の更なる徹底により適正利益の確保を図るとともに、フィービジネスの拡大による手数料収入の増加等を図ってまいります。

以 上